



Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 特別号「ほのか」
Issue Date	1940
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77648
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part51.pdf



[Instructions for use](#)

卷頭言

新刊号
は「が」昭和十三年

今年卒業する諸君は昭和十二年に入學したのであつて、其年の四月に入學してから二三ヶ月の中に東亞の歴史を劃する事變が勃發し、其後ずつと緊張し切つた時變下に諸君は諸君の三ヶ年のカレツヂライフを經過して來た譯である。諸君は平時のカレツヂライフに見られる様な色々のなごやかな憶ひ出や奔放な感激の語り草は、餘り經驗しなかつたであらうが、諸君は此後の東亞の歴史を色づける興亞の精神をカレツヂライフの最初から訓練されて來た謂はゞ第一回の卒業生である。其意味に於いて諸君が學園を出て今や世に出でんとする事に大きな歴史的意義を見出すのである。興亞の聖業はこれから尙ほ幾年かゝるか分らないけれども一億の民一心に、皆其立場々々に於いて此聖業に従事するのである。興亞の精神を訓練された諸君が、國內國外の戦線に新らたに参加する事は

るであらう。

歴史の永い間、對立や抗争が絶えなかつた東亞の空には興亞の黎明の中に新秩序が展開しやうとして居る。自然は今や春の黎明、東亞は今や新秩序の黎明、而して諸君は早春の陽光を身にあびながら、興亞の鐘を聞きながら、今や實社會に門出し様として居る。正に人生の黎明である。あらゆるものが、今發芽しつつある。野にも山にも私等の學園にも。

來を暗示して居る。庭は雪と霜に荒れ
蕾はもう幾分色づいて來て居る。満星
芽がはち切れる様な生命力を示して居
きな朽の木の新芽が萌え出て居